

Rosa Formula

ローザ・プルムラ



●茨城大学・大学教育センター

ニュースレターNo.32

目 次

巻頭言	1
大学教育センターから	2
専門部会から	
ー諸君の受講を待っていますー ...	2
聞いて欲しい私の意見	
ー新入生のみなさんへー	7
Voice	
ー私の出会った素敵な授業ー	
.....	9
教養教育古今東西	10

(平成18年3月発行)

“教養”は人間としての幅や高さや深さを測る物差し ー茨城大学への入学を祝ってー

学 長 菊 池 龍三郎

平成18年度茨城大学新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本学を代表して心からお祝いを申し上げます。

さて、日本経済は長い低迷を脱してどうやら本格的な好況期に入り始めたと言われるようになりました。しかし、この十数年で日本社会は大きく変わりました。グローバル化が進み、産業から教育に至るまでの様々な分野に新しく「世界基準」が入ってきました。これから大学で学ぶ皆さんは、まず世界に通用する資質・能力を持つことが期待されています。たとえば、これからは外国語、中でも国際共通語としての英語の読み・書き・話す・聴く力は必須です。本学は社会に出てから役立つ英語の基礎を身につけてもらうために、全学的に「総合英語プログラム」を実施しています。ぜひ新入生の皆さんには卒業後のことを考えて、しっかりと学んで下さい。昨年度からは交流協定校であるアメリカのイースターン・ワシントン大学等への短期の語学研修も始まりました。

この十数年間のさらに大きな変化のひとつは、社会のあるゆる分野でIT化が進んだことで、今や金融・資本・物流の相当部分はネット上で取引されるようになりました。それは新たに様々な問題を生み出していますが、本学は、社会全体がIT化する中でしっかり

と活躍できる情報技術の基礎と倫理を育てたいと思います。

これからの社会では 社会性やコミュニケーション能力もますます必要になります。学生の皆さんにはインターンシップ等にも積極的に体験して頂きたいと期待しています。

もうひとつ、皆さんには、自分の“教養”をつくる努力をして欲しいと思います。“教養”とは何かは難しい問題です。しかし、ただの物知りをつくることでも、クイズ番組で素早く次々と難問に答えていく回答機をつくることでもありません。確かなことは、“教養”と言われるものによって、その人の人間としての幅や高さや深さを測られてしまいかねないものということです。皆さんがこれから学ぶ教養教育は、実に皆さんの人間としての値打ちをつくるものと言って過言ではありません。

これは大企業で長らく新人の採用に関わってきた数人の人事担当者の話です。ほぼ共通して、面接ではほんの十分間も話すと、その学生がどの程度の中身があるかはすぐに判る、特に読書量がどれくらいかですぐ判別できるとのことでした。様々な分野の読書を辛抱強く続けてきた人は、先ほど述べたように、人間としての幅や高さや深さがあると、従って可能性があると思ってしまうと言うのです。教養をつくる方法は色々考えられるけれども、その意味でも系統的そして継続的な読書は欠かせないと思います。

ではどういうものを読むか。これについては歴史的にも色々な試みがなされてきました。たとえば大分昔の話ですが、アメリカの伝統的な大学では欧米の古典から人間形成に不可欠と思われるものを選びすぐった“Great Books”を読ませようとしたこともありました。本学ではどうか。もちろん古典もありますが、幅広い分野の読書に皆さんを誘うことを考えています。ぜひ在学中に目標を立てて、たくさん本を読んで欲しいと願っています。

最後に皆さんには、困ったことがあってもひとりぼっちだと思わないで欲しいのです。友人同士の交友はもちろんのこと積極的に先生方の研究室を訪ねて下さい。本学では誰もが皆さんの学業・生活等すべての面で相談に乗るオフィスアワーを設けています。困ったことがあったら事務スタッフにも気軽に相談してみてください。「なんでも相談室」もあります。何よりも、心を許し合える友人をつくって下さい。学業の中でもいいし、クラブ活動を通してでもいいのです。いい友人ができれば、それだけで大学生活は半分成功です。

皆さんのこれからの本学での学生生活が充実したものになるよう心から願っています

“茨城大学において、教育力の進化は止められない!”

大学教育センター

センター長 阿久津 克己

新入生の皆さん、ようこそ茨城大学に!

皆さんのご入学を心から歓迎いたしますとともに、本学を選ばれた“確かな目”に敬意を表します。皆さんが大学に入られて最初に学ぶ教養教育は、これからの大学生活をより一層充実したものにするとともに、卒業後の社会生活を悔いなく生き抜く術を提供する思いのほか重要な役割を担っています。本学ではその重要性を鑑みて、これまで教養教育の一層の充実を求めて様々な改善に心血を注いで参りました。今年度からお目見えする「大学教育センター」は、その証ともいえます。ではその経緯を簡単に紹介いたします。

これまでの大学教育研究開発センターは、平成8年に本学における教養教育の更なる充実、強いては大学教育発展の一翼を担うために、「4年一貫カリキュラム」と「全学出動体制」を旗印に教養部を廃止して発足した機関であります。発足以来、学際的な概念を取り入れた総合科目や学生自身が主体的に取り組む主題別ゼミナールを教養科目として開講し、その後習熟度別教育を取り入れた総合英語や接続教育の導入など、教養教育にタイムリーな内容を織り込む一方で、様々

な専門領域の本学教員が教養教育に携わり専門教育との連携を一層深めることで、本学における教育の質的向上に寄与して参りました。しかしながら、発足からほぼ10年の経過は、教養教育の枠組みや担当体制等における様々な問題点も同時に析出させ、年々その顕在化が目立つようになりました。加えて「ゆとり教育世代」の入学や「全入時代」の到来で加速するであろう学生の多様化、あるいは法人化がもたらす新たな課題等が山積し、これまでの教育体系は大きく軋み、本学としての早急な対応が迫られております。そんな状況の中、本学では顕在化した問題点の解消を進めるとともに、今後求められる大学における初等教育（基礎教育＝教養教育と接続教育）の一層の充実を推進するために、これまでのセンターを改組し、その実施体制を強化した新たな「大学教育センター」が設置されることになりました。

まさに皆さんが入学された今年は、新たな大学教育センターの下で、専門教育と有機的に連携した基礎教育が展開され、本学がこれまで培ってきた教育力が更なる飛躍を遂げることで、皆さんの期待を裏切らない教育が提供できると確信しております。

では皆さんが充実した大学生活を過ごされることを心から祈念しております。

専門部会から ー諸君の受講を待っていますー

英語科目専門部会長 小林 邦彦

近年インターネットの普及などITの伸展に伴い経済・社会等のグローバル化が加速され、国際的共通語となっている「英語」のコミュニケーション能力がますます求められるようになってきました。それはリスニングテストがセンター入試へ導入されるなど進学や就職に英語能力を重視する教育機関や企業が激増していることから明らかです。また昨年度のある統計によると主要企業のうち新入社員採用時にTOEICなどの英語力テストのスコアを考慮するものが59.2%、今後考慮予定が20.6%と主要企業全体の8割近くが実践的英語力を要求してきています。従いまして、英語はもはや授業の1科目ではなく大学卒業後社会人として自分の可能性を広げるための道具としてとらえるこ

とができるでしょう。茨城大学ではこれらの状況をふまえて実践的コミュニケーション能力の育成を目指した「総合英語プログラム」を昨年度より全学部を導入しています。

「総合英語プログラム」は、英語の4つの技能（reading, writing, listening, speaking）を総合的に習得する4技能習得型の授業と各学部の専門教育に必要な英語能力との橋渡しを目的とした学術用英語（EAP）からなり、入学後の英語実力テストの結果により習熟度別の5段階クラス編成がなされます。特に4技能習得型の授業では、これまで学習してきた英語による受容能力(receptive skills)の定着を図りながら発信能力(productive skills)にも力点を置き、使える英語力の育成を目指しています。また、コンピューターを利用した英語の自主学習プログラムも導入しており、

英語を多面的に学習できる環境を整備しているところ
です。

この総合英語プログラムの授業に積極的に参加する
ことにより「世界へアクセスする能力」「グローバル・
リテラシー」(国際対話能力)を養い、自分の可能性
を切り拓いていきましょう。

未修外国語専門部会 稲 葉 奈々子

新しい言語を学んでみませんか

ーチョコレートに向こうに世界をみる方法

「宇宙船アポロが月に着陸したとき、そこにはす
でにサラコレがいた。」こういわれるほどに、西アフリ
カのマリ共和国のエスニック集団のひとつ、サラコレ
の人たちは多数の移民を世界各地に輩出する集団とし
て知られている。マリの首都バマコをモーリタニア方
面に500キロほど北上したセネガル国境の近くに広が
るカイユ地域がサラコレの故郷である。

そんなサラコレの人たちのなかで、旧植民地宗主国
フランスに出稼ぎに来ている人の家族の調査をするた
め、昨年末にバマコを訪れた。もっともよく使用され
ている現地の言葉はバンバラ語だというが、そうはい
っても公用語はフランス語である。たいして苦勞せず
にインタビューできるに違いない。

この私の目論見はずれた。フランス語が通じるの
は現地の高学歴層ぐらいで、フランスに出稼ぎに行く
層のほとんどはフランス語をほとんど話すことができ
なかった。フランスに子どもが出稼ぎにいつているお
ばあさんたちのなかには、バンバラ語もダメで、母語
であるサラコレ語しか話せない人もいる。そんなわけ
で、私は毎日バンバラ語とサラコレ語を学習すること
になった。

新しい言語を学ぶとき、あなたはどんな基準で選ぶ
だろうか。「就職に有利になるような言語、それに加
えて外国語検定で資格が取得できる言語のほうがいい
かも・・・。」そういう選択の仕方もあるだろう。私
も正直いって、バンバラ語はマリにおいても一部でし
か通用しないから、時間と労力をかけてもコストパフ
ォーマンスが悪いと思っていた(今も思っている)。ま
してサラコレ語・・・。

とはいえ、フランスに出稼ぎに行っているマリ人の
多数派はサラコレである。インタビューでフランスで
の職業を聞くと、パリの市の清掃職員という人が多か
った。パリの町や駅を早朝と深夜に緑色の作業着姿で掃
除をしている人たちである。出稼ぎをしたサラコレの

なかの成功者のひとりが、清掃の下請け会社を4社も
経営する社長になったため、そこで仕事を紹介しても
らえるのだという。さらには、ダロワイヨという日本
にも銀座に支店のある高級食料品店のチョコレート
をパリの郊外、コロンブの工場で作っている人たちも
いた。

調査を終えて帰国便の経由地フランスに戻ったあと
に、この花の都パリの清掃をする人たちが、遠くカイ
ユから来ているサラコレの人たちなのだ、とため息を
つきながら、ダロワイヨでチョコレートを買ったこと
は言うまでもない。サラコレ語は修得したという域に
は達しなかったけれど、フランスを代表するチョコレ
ートの向こうに、遠くアフリカのカイユから出稼ぎに
来ている人たちに想像力を働かせることができるよう
になった。

言語を学ぶという行為は、まだ出会ったことのない
人、もしかして一生出会うことのない人のことを想像
できるようになるということかもしれない。

みなさんも新しい言語を学ぶことで、想像もしなか
った世界への想像力を養ってみませんか。

健康・スポーツ科目専門部会長 勝 本 真

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

茨城大学の新しい生活は順調でしょうか、それとも
思いの外、大変な毎日を過ごしているでしょうか。毎
日の生活の中で、みなさんはどれだけ自分の身体に気
をつけて過ごしていますか。健康・スポーツ科目は、
みなさんの身体に着目した授業です。

健康・スポーツ科目は、前期か後期のどちらかを選
択し、週一回の授業を15週実施して1単位取得できま
す。これを1年次、2年次でそれぞれ1単位ずつ取得し
て、合計2単位を取得しなければいけません。授業を
受ける曜日・講時は、学部・学科・学年によって指定
されていますので、間違いのないように受講してくだ
さい。開講されている種目は、高校の保健体育とは違
って野外活動やウォーキング、サッカー、テニス、ソ
フトボールなど様々な球技と幅広い種目を準備してい
ますので、新たな運動にチャレンジしてもらいたいと
思います。しかしここまでの話の中で、体力の向上、
運動技術の習得が授業の中で一番の目的ではないかと
考える人が多いかもしれません。しかし授業では、上
手い下手があまり重要ではなく、スポーツを通してい
かに自分の身体と向き合って、自分の身体を理解する
かが大切になります。また様々な人達とスポーツを通

して接しますので、コミュニケーション能力も大切になってきます。週一回の身体を解放する限られた時間ですので、どんどん積極的に参加しましょう。

高齢化した日本の社会で、社会人として当たり前のように健康的な生活を送ることが大切になってきます。しかし現実には、あまり身体を使わずに生活できるように、現代社会が進歩しています。そのような時代だからこそ、自分の身体としっかり向かい合うことが、大学時代に必要だと思います。親元を離れ生活して初めて親の有難さがわかるように、けがや病気をして初めて健康の有難さを痛感します。健康的な生活習慣の育成に運動は重要な要因であり、この授業で学ぶ健康やスポーツに関する様々な知識を十分活用して、自分自身の健康的な生活を大学時代に築いてもらいたいと思います。

情報関連科目専門部会長 鴻 巢 眞 二

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。前途の未知なる体験に不安を感じつつも希望に胸を膨らませているのではないかと思います。今までとは違って自己責任のもと、自分で判断して新たなことに自らの力で切り拓いていかなければなりません。

教養科目のなかには、情報関連科目が用意されています。授業で学ぶことは、一人一人に割り当てられたコンピュータを実際に使った基本操作習得からソフトウェア使用法、ネットワークの仕組みの学習等を通じて有益なコンピュータ利用技術を身につけることを目的としています。授業は、一方向で受動的な授業ではなく、実技を通して自らが学ぶ点が大きな魅力であり特徴です。

既に皆さんはこれまでの生活から、この社会が急速に高度情報通信社会へと変わってきていることを実感していることと思います。コンピュータが発明されてからわずかに半世紀しか経っていないのに、あらゆる産業および機器に重要な役割を果たしてきています。仕事の進め方もデジタル化によって近年随分と変わってきています。したがって、大学を卒業して社会に巣立つときに、当然身に付けているべき能力として、コンピュータを使いこなす、情報やデータを処理してプレゼンテーションできる、いわゆる「情報リテラシー」が必要とされています。一方、インターネットはインタラクティブな双方向メディアであるため、情報を一方的に受け取るだけでなく、自分の情報をも発信できるので、ネットワーク利用上のマナー（ネチケット）

や倫理規程も学ばないと大変危険なものになってしまいます。是非、情報関連科目を受講して、これからの生活で切り離すことができない「情報リテラシー」を学んでください。先生やティーチング・アシスタントに気兼ねなく疑問点をぶつけて、自分にとって本当に役立つリテラシーを身に付けてください。皆さんの積極的な姿勢が必ず新たな充実した世界を切り拓いてくれることと思います。情報関連科目を担当している教員一同大いに期待しています。

人文科目専門部会長 堀 口 育 男

新入生の皆さん、合格おめでとう。

皆さんは、大学に入り、今までの「勉強」（特に受験勉強）とは違う、「学問」を学ぼうと期待に胸を膨らませているのではないかと思います。大学では、本格的に専門の分野に進む前に、まずは、教養科目を中心に学ぶことになります。その教養科目の1つの分野として、「人文」の分野があります。「人文」という言葉は、あるいは、大学に入るまでは、あまり聞きなれない言葉であったかもしれませんが、簡単にいえば、〈人間を中心とした分野の学問の総称〉とでも言うことができるでしょうか。具体的な学問分野で言うと、哲学、心理学、歴史学、比較文化論、文学、言語学、芸術、コミュニケーション論などが含まれます。皆さんは、こうした学問分野の授業の中から、自分の興味関心に合わせて、選択・履修することになります。

ところで、一体、なぜ私たちは「人文」の分野の学問を学ばなくてはならないのでしょうか。人文の分野の学習内容は、たとえそれを知らなくても、実生活上は、それほど不都合を感じないものが多いことは、事実です。では、何のために「人文」の分野の学問を学ぶのでしょうか。

ここで、一つの喩えを出したいと思います。皆さんは、旅行をすることがあるでしょう。何人かで同じ場所を訪れ、同じものを見たとしても、そこで受ける感動、感銘、感想は、決して同じではありません。何に興味を持つか（持たないか）、何に感動するか（しないか）、実は、ひとりひとり全部違っています。たとえば、ある古戦場を訪ねた場合、歴史的知識がない人にとっては、そこは唯の野原にしか見えないかもしれません。しかし、歴史的知識がある人にとっては、それは口に言い表せないほどの面白い景観なのです。しかし、一口に歴史的知識がある人と言っても、漠然とした曖昧な知識しかない人と、深い造詣がある人とは、

感動の程度は、全く違ってくることはいうまでもないでしょう。以上のことはあくまで一例ですが、同じものを見、同じものを聞き、同じ体験をしても、ある人にとっては少しも面白くないものが、別の人にとってはかなり面白く、さらにまた別の人にとってはこの上なく面白い。この差こそ、まさに「教養の差」なのです。ですから、「教養」が豊かな人ほど、世の中に面白いことが多いということもがきるでしょう。人文の分野の授業はこうした教養を身につけるには、大いに役立つのです。このことは、ひいては豊かな人生を送る上で、大いに役立つと言えるのではないのでしょうか。これで人文の分野の授業の価値を言い尽くしたわけではありませんが、紙幅の都合もあり、一端を述べました。皆さんの意欲的な受講を待っています。

社会科目専門部会長 佐藤 恵一

どのような学問分野を専攻するにせよ、本学を卒業するためには教養科目を26～42単位修得しなければなりません。このうち分野別教養科目（分野別科目）と区分されている科目を6～10単位を修得する必要があります。この分野別教養科目（分野別科目）には、「社会の分野」と区分された授業が用意されており、その中から学部・学科等で定められた一定の単位数を修得する必要があります。この分野の授業では、一般に社会科学と呼ばれる学問分野が取り扱うさまざまな社会現象の解説を受けたり、その研究方法を適用した社会の仕組みを解明するためのプロセスを垣間見たりすることになるでしょう。

ところで、社会科学を専攻する学生は別としても、高校段階から社会系科目に苦手意識を抱いている学生が多いように見受けられます。また、入試における受験科目の多様性も影響して、大学入学前の社会系科目の学習歴にバラツキがあったり、特定科目の履修に偏ったりしている現実があります。このような状況に対応するため、本学の分野別教養科目は、「原則として所属学部の専攻分野によらず理解できる内容」となるように種々工夫されております。とは言え、社会の仕組みはそれ自体としては目に見えないし、直接手に触れてみるなどできないものです。例えば、われわれは資本主義の仕組みの中で生活しているのですが、それが実際、どのように動いているかを理解することはそう易しいことではありません。小学生の素朴概念の調査でも、お金を預けると利子が貰えることはよく知っているが、銀行からお金を借りると利子を払わなければなら

ないことを認識するのは、ずっとおくれるとのことでした。また、銀行が預金を集めてそれをより高い利子で貸出し、そこから利益を得ているのだというところまで分かっているのは、大学生でさえ半数程度だったとのことでした。このような現状を踏まえて、授業を担当する教員の側でもレベルを落とさずに分かりやすくなるように工夫を凝らしておりますが、受講者が、漫然と受け身的に授業に臨んでいたのでは所期の効果は発揮されません。ぜひとも各授業科目のシラバスに記載されている「履修上の注意」をよく読んで、指示されたことは実行してほしいと思います。そうすることで苦手意識を取り去ることができるはずなのです。

最後に、近い将来を見据えて、教養科目の役割を確認しておきましょう。シラバスには「社会のリーダーとして必要な能力を育てるための」科目であることが謳われております。とりわけ、われわれが生活している社会を客観的に把握し、抱えている問題を的確に認識できる能力は、今後ますます必要とされるでしょう。今春入学した諸君が卒業を迎える頃には、国民が刑事裁判に参加する「裁判員制度」が始まっているはずです。これは国民の意識に大きな変化を呼び起こすような気がします。国民誰もが裁判員に選任される可能性が生まれたのです。この場合必要とされるのは、高度な法律的知識ではなく、むしろ社会や出来事を客観的に認識する能力ではないかと思います。そのような能力を身に付けておく意味合いからも、新入生諸君には、「社会の分野」の科目を意欲的に「指定された単位数以上」履修してほしいと願っております。

自然科目専門部会長 川田 勇三

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんの中には、将来に対し既に明確な目標を持っている人、これから自分探しを始める人まで色々いることでしょう。大学は自然、人間、社会などについて講義・演習・実習などを通じて、最後にまとまって学ぶ場所です。今はどんな段階であってもよいと思いますが、よりよい人生を考え、選び取って行く上で、これら授業は大いに役立つ筈です。

さて、教養分野別科目「自然」には以下の二つのタイプがあります。

〔分野別教養科目〕理系でない学生に対し、周辺諸科学としての自然科学を紹介し、自然に興味をもってもらうとともに、自然科学的なものの見方・方法を身につけていただくためのものです。六つの分野に分か

れていますが、いずれも、(1)対象を認識／分析するための基礎的方法論としての特徴・有用性、(2)生活、社会、環境などとの関わり、(3)課題、などが理解できるようにします。

これまで授業アンケートではやや評価の低い授業もみられましたが、今年度は、身近な素材を選び、より分かりやすい講義になるよう、改めて申し合わせました。生命、環境などを取り扱った授業に人気が集まる傾向がありますが、人間や社会との関わりという面では、他の分野も同じように重要です。片寄らずに学修してください。

〔分野別基礎科目〕理系学部学生に、専門の最も基礎的部分を学修してもらうものです。今年度からは、工学部・農学部向けの数学（微積分）の接続授業を強化したほか、物理学（力学）でも新たに接続授業を開始しました。習熟度を調べる試験を受けてもらった上で、指定する方に受けてもらう授業ですが、苦手な方は、これらの授業の主旨を活かして、標準的なレベルまで是非前期で追い付いてください。なお、これら授業とは対照的に、微積分が得意でよりその力を高めたい工学部学生に対しては、微積分の上級クラスも用意されました。

自然科学の方法を知り、自然科学的なとらえ方ができることは、物事を総合的にとらえ、課題に迫って行くためにはどんな分野でも必須です。皆さんの受講をまっています！

注：理学部では、分野別科目の自然にあたる科目は、専門科目として提供されています。理学部学生は履修出来ません。

総合科目専門部会長 関 友 作

教養科目には、いろいろな種類の授業があります。その最後が「総合科目」。総合科目って、いったい何でしょう？

辞書で「総合」をひくと、「別々のものを一つに合せて、まとめあげること」とあります。ちなみに、反対語は「分析」です。分析とは「複雑なものをその要素に分けて、はっきりさせること」です。

分析といえば、教養科目の区分にもみられるように、学問には、じつにさまざまな分野があります。そして、各分野は、さらに細かい専門に分かれています。これは、複雑な社会や自然を、人間が部分に分けて、はっきりさせてきた結果です。だから、分析の産物といえ

ます。歴史とともに分析は進み、細かい分野は、どんどん増えてきました。

ただし、分析するばかりだと、多くの分野が生まれる一方で、全体としてのまとまりが薄くなっていく可能性があります。そこで、総合することも必要になってきます。別々の分野を組み合わせることも、大切なのです。

じっさい、世の中の問題には、一つの分野の成果だけでは解決できないものが多くあります。たとえば、環境問題に対しては、複数の分野の協力が必要です。また、その影響も、多面的で全地球的です。

つまり、タテの方向に深めていくのが専門だとすれば、ヨコの方向に広げていくのが総合だといえます。総合科目も、ヨコに広げていくこと、つまり、複数の分野の「つながり」を目指しています。

そこで、総合科目では、専門分野がちがう教員たちが担当する講義や、学外の講師に来てもらう講義もあります。学外の講師は、他大学の先生だけでなく、たとえば芸術関係の方だとか、いろんな人が来られます。こうした講師も、何らかのつながりがある人たちです。さて、わたしは、自分とは別の分野の先生方と話すことがよくあります。おたがいに専門はちがいますが、話していると、「おや、そうなのか」と思うことが、たびたびあります。相手の先生も、たぶん同じでしょう。

じつは、どんなに関係ないと思っている二つのことにも、よく聞いたり見たりしていると、重なってくる部分、つながりあう部分というのがあります。そして、その発見は、自分の専門にとってもヒントになることが多いのです。

皆さんには、総合科目をとおして、いろいろなものの間にあるつながり、そしてまた、一つのものでも、さまざまな見方ができることを感じてもらいたいと思います。これはつまり、頭を柔軟にすることといえましょう。そのためのお手伝いができれば幸いです。



聞いて欲しい私の意見 —新入生のみなさんへ—

妹 尾 明 美(理学部・自然機能科学科)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は皆さんと入れ違いで茨城大学を卒業し、社会人となります。大学に入学してから卒業に至るまでの4年間という月日は、振り返るとあっという間でした。こう言われても、入学したばかりの皆さんにはぴんとこないかもしれませんね。しかし、大学時代の時間は皆さんに平等に流れ、皆さん次第で大学生活は大きく変わってしまうものです。そこで、私が大学生活で得たことを基に、これから大学生活を始める皆さんにささやかながらアドバイスをしたいと思います。

大学生活は高校までとは違い、自由な時間が多く自分のやりたいことが出来るチャンスに恵まれています。サークルにアルバイトにと色々なことを経験してみるのもよいでしょう、もちろん何か1つのことを極めてみることも面白いでしょう。チャレンジする内容は何でもよいと思います。特に夏休みや冬休みは約2ヶ月もあります。この長期休暇を利用して、是非いろいろなことにチャレンジして欲しいです。私もアルバイトや、企業での就業体験（インターンシップ）に挑戦しました。大学生活の中で自分の知らなかった一面を発見できるとよいですね。

もちろん休みの前には試験があることを忘れてはなりません。学生の本分はあくまでも勉強です。自由な時間が多からと、普段から羽目を外しすぎて単位が足りなくなったということがないように気をつけてください。勉強はもちろんのこと、皆さんの大学生活に関して誰も強制はしませんので、自分の意志で動くことが求められます。自己管理をしっかりと、自立した大学生になってくださいね。

高校までの生活から一変して、大学という新しい世界へと飛びだした皆さんの胸の中には、きっとたくさんの期待とそして少しの不安があることでしょう。特に一人暮らしを始めた人にとっては生活面で不安があるかもしれませんね。確かに新しい環境では最初は戸惑うかもしれませんが、慣れてしまえば充実した大学

生活を送れるので大丈夫ですよ。また、皆さんの周りには、友人や先輩、先生方、そして地域の皆さんと、皆さんを支えてくれる多くの方がいます。不安なとき、心配なときには相談してみるとよいでしょう。

最後になりますが、皆さんの大学生活が充実したものになりますよう、心から応援しています。

吉 田 綾(農学部・地域環境科学科)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。苦しかった受験も終わり、新しい生活や環境に期待や不安をかかえている方もいらっしゃると思います。そこで私から皆さんに大学生活についてささやかなアドバイスをしたいと思います。

大学というのは高校までと違い自由な時間が多いです。毎日一日中授業があるというわけではありませんし、夏休みや春休みも長いです。そのような中で自分の興味あることにいろいろ挑戦してみましょう。今しか経験できないこともあり、経験することで新たな自分が再発見できるのではないかと思います。私は高校までバイト経験がなかったのでバイトを始めました。しかし大学の勉強は最低限やり、自分に責任があることは忘れないで下さい。

次に学部の話をしたいと思います。私は農学部地域環境科学科に所属していますが、二年生からキャンパスが阿見町に変わります。そこで教養科目の単位は水戸で取っておくことを薦めます。というのは阿見では教養科目が少なく、あっても専門科目に時間が取られがちだからです。専門科目が始まると、実験や実習があり、レポートも多く単位を取るのが大変です。すると専門科目を優先し、また教養科目が取れないということもあります。更に水戸通いも大変です。後々苦労しない為にも一年生のうちに取れるだけ教養科目は取っておきましょう。

最後になりましたが、新入生の方には茨城大学が希望の大学ではなく大学生活にまだ希望が見出せない方もいるかもしれません。私も仮面浪人をしながら他大

学を目指していましたが、合格できず第二希望の茨城大学にきました。しかし仮面浪人をしている間に感じたのはこのような辛い道を選んだのは自分であり、またそれにこだわっていた自分が馬鹿馬鹿しく思えてきました。自分の視野の小ささに嫌になり、新しい大学では自分を変え楽しくすごそうと思えるようになったのです。実際茨城大学は面白い授業も多く、学部別授業などで友達も多くでき、おかげさまで楽しい大学生活を送れています。ですから今新生活に積極的になれる方もとりあえず大学生活を送ってみましょう。大学に通っているうちに自分の気持ちに変化するかもしれません。もし誰かに相談したい時はなんでも相談室があるので利用してみるのもよいでしょう。

茨城大学には勉強するにも生活するにも良い環境が整っています。是非実りがある楽しい大学生活を送って下さい。応援しています。

小 泉 明日香（人文学部・人文学科）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんにとって充実した大学生活になりますように。

さて、そのために…私からちょっとお話をさせて頂くわけですが、えらそうなことは言えません。ただ、四年生になった今、新入生の皆さんに伝えておきたいのは、「自分で決める」ことが、大学ではたくさんあるということです。

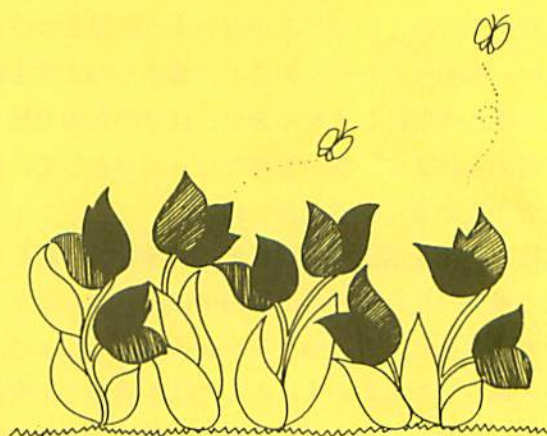
大学というのは、自己責任の世界です。高校までは、どの授業をどう取るかが決められていて、大勢が一緒に、ひとつの時間割に従って勉強していました。ですが大学では、一人一人の時間割は違ってあたりまえなのです。学ぶことからして、自分で決めるのですから。大学ではそれぞれが、興味や目標に合わせて自分で組んだ時間割に沿って動きます。勿論、卒論がある学科では、そのテーマも自分で決めます。肝心の卒業に必要な単位数は講座によって違いますが、勿論単位が足りなければ、……ですから（恐怖）、ちゃんと単位を満たせる授業の配分も自分で決めるわけです。

ここまで書くとなんだか脅みたいですわね…、ただ、大学では何を・どう学ぶか、卒業できるか、すべて自分次第だということがわかって頂けたでしょうか？

とはいえ、難しく考えないでください。新入生の皆さんには、この先幅広い授業をたくさん受け、自分の学びたいことを考える時間があります。ゆっくりとやりたいことを見つけてください。学びたいことを学べる、大学の勉強の魅力が見えてくるはずです。

その過程で、わからないことも多くあるでしょう。授業の取り方ひとつにしても、講座によってある程度骨組みはあっても、どう取って良いやら迷うことが私もありました。もちろん勉強についても言えることですが、わからないことは、まず友人、先生など、人に聞くのが大切です。聞くのが恥ずかしいと放っておくと、恥ずかしいどころではないことになってしまいます。わからないことは、決して恥ずかしいことではありません。その場でスパッと聞いてしまう方が、よっぽど自分に責任を持って動いていると思うのです。

何でも自分で決めていかなければならないことに、迷う場面もあるはずですが、だからこそ大学生活は「自分で動いている」と実感できる、自分次第でいくらかでも良くすることのできるものだと思います。ぜひ自分にしっかりと責任を持って、楽しい大学生活を送ってください。



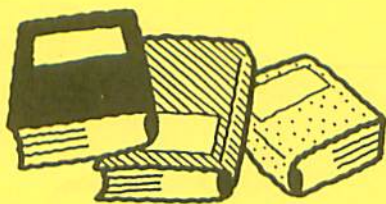
Voice - 私の出会った素敵な授業 -

渡 邊 光 善 (工学部・物質工学科)

茨城大学に入学してから早いもので4年が経とうとしています。大学生活は本当に自由なもので、その自由の中で自分が責任を持って選んできた生活は、毎日をより実りのあるものとし、とても有意義な時間を過ごせたと思います。今回、「私の出会った素敵な授業」ということですが、この4年の間、専門分野だけではなく多岐にわたる授業を受けてきて、そのほとんどが新鮮で自分のためになると感じました。というのも、自分が興味を持って選んだ授業なわけですから、そう思うのも自然なことだと思います。

その中で、あえて「これっ」というのを選ぶとすれば、実験になるんですかね、ほんと、工学部に実験は欠かせないものです。実験はまず第一に、物質が身近に感じる、物質の世界が見えてくる、私たちの生活に密着していることを気づかせ、その中で「化学はおもしろい!」と感じさせてくれたように思います。実験を成功させるためには、長い時間をかけた十分に周知な準備が必要であり、それでもなお失敗することは多いものです。そこで、あきらめずたゆまず努力を続けると、道が開けていきます。実験のいいところは確実にそのステップが残り、形として成果が現れることにあると思います。予想された結果が得られたときの嬉しさ、予想外の事実が明らかにされたときの気分の高まりなど、研究者冥利を実感できる瞬間です。失敗を我慢して実験を継続する根気、これによって忍耐力も相当ついたと思います。実験には危険は付き物ですが、それをふまえても実験は楽しいものです。

授業は聞くことが主で受身になりがちですが、実験は自分から進んでやるものです。その中で、楽しさというのは必ず出てくると思います。それに、実験に楽しさが見出せなくても、前途のように大学には様々な興味深い授業がありますから、必ず自分にとって面白い授業はあると思います。ぜひ積極的にいろいろな授業を受けてみてください。



墨 岡 亜 古 (教育学部・学校教育教員養成課程教育基礎選修)

教員養成課程の私にとって、実践的な授業や現場の先生の声はリアリティーがあって、今後生かすことができそうで、なんだかワクワクします。ただ、「大学」という場であるからこそ学べることは何だろう、と考えたとき、一步実践から離れてみて自分の中で考えていく作業も重要なのでは、と思うことがあります。その枠にはまっていないからこそ考えられること、それは大学生の今、やれることなのではないでしょうか。そんな中、「素敵な授業」として、3年と4年で受講した生越達先生の「教育関係論特講」という授業について書こうと思います。この授業は教育書を読んでいくわけでも、先生がひたすら講義をするわけでもありません。毎年、ある作品を用いて、本を読んだり映画を観たりし、話し合いを持つ中で、考えて行きます。

今回は、ミヒャエル・エンデの『モモ』を用いた、4年のときの授業について。

モモのきく姿勢を見ても、時間を奪う灰色の男を見ても、これはファンタジーだし、と割り切って考えることもできます。そこをふと立ち止まって考えてみるのです。消費社会に生きる私たち自身の姿を振り返ったとき、灰色の男は他人事ではなくなりました。「きく」こととは? 「時間」とは? それを考えるだけでグルグルしてきました。話し合っていると、それぞれ捉え方が違うことに気づきます。気づかなかったことを新たな視点から伝えてくれる人や、自分が疑問にも思わなかったポイントまで尋ねてくる人がいます。先生のコメントがピリッとスパイスのように効いてきます。そういう意見を「きく」ことで、また、自分の中で考え直すのです。この作業は、なかなか苦しいけれど、考えの深まり、広がりを感じることは、楽しい時間となります。この授業での受講者の所属が幅広い学年・学科であったことも新たな風を感じることで新鮮でした。

授業を通して、ファンタジーの世界で現実の話ではないのに、自分に響いてきました。現代社会に生きる自分たちについて考える機会であったと思います。

少し距離を置いてみて、自分の中でじっくり考えてみる。現実と向き合ってみる。いろいろな人の意見にも耳を傾けてみる。そんな時間があっていいのではないのでしょうか。それは、そのときの授業、場面だけの話に留まらない気がするのです。自分という人間を少しでも深く、成長させてくれるような授業は、後からでも「素敵な授業」だったと感じられるのだと思います。

教 養 教 育 古 今 東 西

教養教育総合科目で「アメリカン・ポップ・カルチャーと日本」という講義のコーディネーター兼講師を勤めて3年が過ぎた。講義の主旨はまず、身の回りに溢れているアメリカ大衆文化を見直し、その起源となる歴史を学ぶこと。講師は現在活躍中のジャズ、ブルース、ソウルのシンガーやミュージシャン、HIPHOPダンサー、ミュージカル女優、ポップアートに詳しい学芸員などで、講義の翌週にはライブパフォーマンスなども行われ、生の演奏や歌、踊りも体験できるというもの。

「見直す」と書いたが、多くの学生たちにとって実はその表現は正しくないのかもしれない。つくづく3年目に入りそう思う。というのも大半の学生にとって、今、目にしているもの、聞いているものがオリジナルだと思っていることがほとんどだからだ。

分かりやすい例を挙げれば、彼らの中の多くがビートルズのメンバーも知らない。J・ポップやJ・ロックは聴くが洋楽は全く聴かない。映画はハリウッド映画でも日本語吹き替えで観る。ポップアートと知らずそのプリントTシャツをなんとなく着ているなどという世代なのだ。それを決して嘆いている訳ではない。

「これはかえって面白い」と思い、また「実はこうなんだと驚かしてみたい」。これが「アメリカン・ポップ・カルチャーと日本」という講義を発想した原点だったことも思い出す。

学生みんながそうではない。だが現代の若者は情報が溢れすぎ、細分化しすぎるため自分の関心事しか興味を持たずそこだけはやたら詳しいが広がりがなくな

りがちだ。そうすると自然と視野が狭くなり、自分の関心事と他の分野との関わりにも目が届かない、気づかない。それでは専門を学んでも新しい発想やグローバルな視点は出てこない。ひいては他人とも疎遠になり相手を理解しよう、してもらおうとも思わなくなるのも当然だ。

講義では、「やわらかい」入り口から入り、アメリカの歴史や人種問題、対抗文化の中での新たな芸術の意味などという「むずかしいこと」も学ぶうちに学生の頭の中では、相互の関連性が生まれてくる仕組みになっている。またその中でアメリカ産の文化が日本に入り、それを吸収し日本でどう表現しているかも、あえてプロのアーティストに語ってもらいパフォーマンスもしてもらおう重要なポイントだ。なぜならそれは学生たちが今後オリジナリティを専門でどのように出していくかのお手本ともなるからである。

内容的にも、専門への広がりを見据えての流れとしても、「教養の講義として言うことなし」と自分では自負していると共に、講師の方々には感謝している。またライブの準備、こと音響設備で「ファミレド市」の全面的な支援なしにはできないものであり、また同時にライブ会場ができあがる様を見ることも学生たちには勉強になっている。

良いことづくめ、自慢ばかり書いたようで恐縮だがアメリカの大衆文化好きの私が一番、この講義を楽しんでいることも事実。しかしそれもまた大事なことを考えている。

(教育学部 君塚 淳一)

発行日 平成18年4月
 発行者 茨城大学 大学教育センター
 水戸市文京2-1-1
 029 (228) 8416 (学務課教養教育係)